

令和6年度 第2回 北浜東小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年5月21日（火）14時00分から16時7分まで
- 2 開催場所 北浜東小学校 特別室
- 3 出席委員 鈴木 博、倉橋 芳久、本間 規子、生熊 義憲、市川 寛奈、
神谷 智里、横田 めぐみ
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブサーバー 鈴木 雄介（北浜南部協働センター）
- 6 学 校 花井 清孝（校長）、佐野 教代（教頭）、
菅沼 秀明（CS担当教員）、入手 佑香（CSディレクター）
- 7 教育総務課 井島 健蔵
- 8 傍 聴 者 なし
- 9 会議録作成者 入手 佑香（CSディレクター）
- 10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、神谷委員と横田委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員意義なくこれを承認した。

11 協議事項

- (1) 授業から見える子供の実態について（授業参観を基に）
- (2) 学校支援ボランティアについて（地域とのつながりをもつ活動）
- (3) 今年度の自己目標について

11 会議記録

司会の菅沼から、委員総数7人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 授業から見える子供の実態について（授業参観を基に）

- ・ 参観会とは違い、自分の子供のクラスだけでなく、他学年の様子を見ることができ、普段の様子に近い子供たちを見て、思っていたよりも積極的に発言していると感じた。（神谷委員）
- ・ 自分が子供の頃の一方向的な授業とは違い、「先生方が、子供たちの意見を聞こうとする姿勢」が前面から見られた。そのような先生の姿勢により、子供たちが積極的に発言しようとしていた。（生熊委員）
- ・ 計算の仕方を「自分はこうやった」と積極的に発表、発言している。自分の意見を伝えようとする力があると感じた。（横田委員）
- ・ 1年生の歌がとても上手で楽しそうだった。学校生活を楽しんでいる印象を受けた。（横田委員）
- ・ 外国語の授業では、歌いながら英語を学ぶことができるととても楽しそうに感じた。先生の問いかけ、投げかけに対する受け答えもよく反応できていた。

（横田委員）

- ・ 外国語の授業は何年生から始まるのか。(鈴木委員)
- ・ 3年生から外国語の授業が始まる。(教頭)
- ・ 新学期が始まって間もないこともあり、まだ多少の緊張感はあるが、元気がよく活気を感じた。(鈴木委員)
- ・ 社会科の授業前に、ゴミのことについて指導しており、とても大切なことだと思った。(鈴木委員)
- ・ 英語の授業が、オールイングリッシュでとても驚き、すごいと思った。
(倉橋委員)
- ・ 生き生きと授業に参加していると感じた。子供たちの表情もとても明るく、楽しんで授業に参加していた。授業の中では、友達作りを意識していて、タブレットを活用しながら自分の言葉で感じたことを日記に書くことができていた。
(本間委員)
- ・ コミュニケーション能力「合格」完成していた。良い意味で裏切ってくれた。
(倉橋委員)
- ・ お菓子のゴミがトイレに落ちていたことについて、指導している場面があった。先生が雰囲気を作り、悪いことは悪いとしっかりと伝えていた。この指導はとても大事なことだと感じた。(倉橋委員)
- ・ 生き生きとして活気に溢れていた。先生が質問したことに対して、子供たちが自由に発言できる雰囲気を感じた。子供たちが自由に発言しやすい雰囲気づくりを先生方がしてくれていることに感動した。(倉橋委員)
- ・ 6年生になると、上級生としての面が求められる。話を聞く場面では、とても静かに聞き、生徒指導と社会の楽しい授業のメリハリがあり、どちらも必要と感じた。(市川委員)
- ・ 小数の計算では、自分でやる・考えを持つ時間と、友達と交流する場があり、段階を踏んでいる。4つの考え方が出ていたが、それぞれにこれまで習ったことを生かして考えていた。自分の考えを持ち、相手に伝えたい気持ちが感じられ、友達同士、楽しんで伝え合う場面が見られて良かった。(市川委員)
- ・ 相手の言おうとしていることを理解したり、受け入れようとしたりすることができており、力が備わっていると思った。手を挙げながら反応し、口々に言っている。それを聞きながら、また反応している。ハンドサインを使って、すぐに反応しているのもよい。(鈴木委員)
- ・ 道徳の授業では、それぞれの価値、それぞれの立場から意見が出る。相手の意見を聞いて、意見が変わった子がいた。そこもよかった。(市川委員)
- ・ 参観会での道徳授業では、ディベートを用いた授業を行っていた。友達同士の仲が良く、意見を言い合い、反論しているところがすごいと思った。自分の意見を表現したり、相手の意見を聞くことが概ねできていると感じた。
(神谷委員)
- ・ 子供たちは、元気よく、意見を言える子が多いが、全員ではない。これからの課題は、「意見を言えない子たちが言える」「全員が手を挙げる」ことができるようにしていくことだと思う。ハンドサインを工夫するのもひとつの改善方

策である。(倉橋委員)

(2) 学校支援ボランティアについて(地域とのつながりをもつ活動)

議長の指示により、教頭から、別紙資料に基づき学校に必要な学校支援ボランティアについて説明があり、委員から、以下の発言があった

- ・ 各学年のボランティア募集については、学年だよりやさくら連絡網で呼びかけしてはどうか。(市川委員)
- ・ ボランティアの活動内容について熟議するのか、ボランティア募集について熟議するのか、何について熟議をすればよいのか。(倉橋委員)
- ・ 学校・各学年に必要な学校支援ボランティアを伝え、可能な活動や活動が難しいものを教えてもらいたい。また、多くの方に募集してもらえるような、募集方法についてもアドバイスいただきたい。(教頭)
- ・ まずは、募集をして周知しなくてはいけない。地域の方には回覧板を使い、「ボランティア募集」といったような便りを作成して募集をする。また自治会にも働きかけが必要だと思う。(倉橋委員)
- ・ 資料にある活動の中で、協力できそうな活動が10個ある。(倉橋委員)
- ・ 地域住民は、学校で支援ボランティアを募集していることを知らない。ボランティア募集のチラシを子供たちに配布して、保護者や祖父母に呼び掛ける方法もやってもらいたい。(生熊委員)
- ・ さくら連絡網の登録について、地域の方でも登録可能なのか。(教頭)
- ・ さくら連絡網の規約では、運営協議会委員については問題ないが、地域の方については登録が難しい。(教育総務課)
- ・ 祖父母は、県外に住んでおり、コロナ禍の影響で孫の成長を近くで見る機会がなかった。孫の学校生活の様子などを見ることができれば、学校支援ボランティアとして喜んで参加してくれると思う。(神谷委員)
- ・ 広く、ボランティア募集をかけてしまうことで、不審者が学校に侵入してしまう心配がある。学校側は、安全対策を強化しなくてはならない。子供たちの安全を考え、ボランティア活動の参加者については、地域の方や身元を確認できる方などに限定してはどうか。(神谷委員)

(3) 今年度の自己目標について

教頭から、第1回運営協議会でいただいた意見を基に、学校運営協議会の自己目標案について説明があった。これに対して委員からは、以下の発言があった。

- ・ 基本的な方針としてはよいと思う。学校・家庭・地域の連携が重要になる。CSコーディネーターの席が不在となっている。地域と学校をつなぐ大切な役目となるので、やっていただける方を探した方がよい。(鈴木委員)
- ・ その他報告事項等
司会から、次回会議は、12月17日(火)午後1時30分から特別室で開催する旨の報告があった。